

2007年生田緑地ゲンジボタル調査報告

亀岡千佳子*1 新村 治*2

The report of the firefly at Ikuta-Ryokuchi Park in 2007

Chikako Kameoka *1 Osamu Nimura*2

1 はじめに

青少年科学館では1983年～1987年・川崎市自然環境調査Ⅰの水生昆虫調査で生田緑地の谷間の探勝路にゲンジボタルの幼虫が生息し、5月下旬頃から7月初旬頃まで成虫も多数発生していることが確認された。以来生田緑地のホタルについて注目し、ピーク時のみの発生数の確認作業を行い、1993年の青少年科学館紀要で木下が観察記録を発表している。その後、生田緑地内にはゲンジボタルを含め6種のホタル、ムネクリイロボタル、カタモンミナミボタル、ヘイケボタル、オバボタル、スジグロボタル(林1991)、クロマドボタル(川田・岩田・高橋・昆虫班1995)が確認されている。

1998年からはゲンジボタル成虫の初見日～終息日までの発生カウント調査をおこなっている。2007年で10年目になる。また、併せてスジグロボタルの幼虫の発光確認作業もおこなっている。調査は館職員と「かわさき自然調査団」の昆虫班であるが、2002年度から調査に加わってくれた市民の方も引き続きホタル調査員として今年度の調査に参加頂いた、2007年の調査結果がまとまったので報告する。

2 調査方法

設定した調査日の19時に青少年科学館に調査者が集合し、19時30分までに調査者を調査場所に向かわせ、19時30分から19時50分までの20分間に目視により発光を確認したホタル数を記録した。調査者が足りず、調査場所に調査者を張りつけることが出来ないときは、20分間に調査場所を巡回し調査した。数人で調査した場合、個人によりカウント数にばらつきが生じたが、その場で協議し、概ね平均数を記録した。記録は発行ホタル数の他に調査時の天気と気温を調査票に記入した。また、調査場所は昨年発生が確認された5ヶ所と、以前に発生が確認されていたが現在は確認されていない場所の3ヶ所をくわえて8ヶ所とした。

3 調査期間

生田緑地の成虫初見日は調査を開始した1998年は5月28日と早かったが、1999年6月4日、2000年6月6日、2001年6月3日、2002年6月4日、2003年6月1日、2004年6月5日、2005年6月11日、2006年6月6日6月に入ってから発生であった。過去5年間の初見日を考慮し、調査開始日を5月31日からとした。調査終了日は、ホタルの終息日が1998年7月11日、1999年7月23日、2000年7月22日、2001年7月10日、2002年7月14日、2003年7月13日、2004年7月4日、2005年7月16日、2006年7月13日であるため、過去5年間の終息日を考慮し7月15日とした。ただし、成虫発生が7月15日を過ぎる場合は、それ以降も発生が終息するまで調査を行うこととした。

4 調査場所

- ① 駐車場奥
- ② 奥の池
- ③ 奥の池南側谷戸
- ④ 旧岡本谷戸
- ⑤ 科学館奥
- ⑥ マレーゼの谷(戸隠谷戸)
- ⑦ 湿地帯下休耕田(ホタルの里)
- ⑧ 谷間の探勝路(木道)

の8ヶ所

5 調査参加者

新村 治 牧野 靖枝 津田 由美子
重井 美香 甲谷 保和 亀岡 千佳子
(6名)

延べ調査者数 44名

6 調査結果

調査結果は表1

天気、気温は調査時のもの。

7 まとめ

- ・ 2007年の成虫発生時期は初見日が6月9日、終息日は7月8日であった。しかし、5月29日に谷間の探勝路でホタルの成虫発生の目撃情報があり（北部公園事務所・発生数2）、6月1日、3日、5日、7日と谷間の探勝路を特に重点的に調査をしたが、発生は確認できず、9日の調査の確認を初見日とした。終息日は、7月8日以降の調査が雨で行えず、1週間後の7月15日に調査をした。調査期間が1週間空いてしまったが、成虫発生数を確認した7月8日を終息日とした。
- ・ 初見日の場所は6月9日、⑦湿地帯下休耕田（ホタルの里）2、最終確認は7月8日①駐車場奥5、⑤科学館奥2、⑧谷間の探勝路7であった。
- ・ 緑地全体の延べ発生数は605匹であった。2006年より約2.1倍増加し、1998年から2006年までの延べ発生数平均値647匹より6.5%の減少になった。
- ・ 2005年までホタルの飛翔が確認されていた②奥の池、③奥の池南側谷戸では2007年も成虫の発生は確認されなかった。また戸隠谷戸では、今まで家屋が建っていたわきの林のふちでホタルを確認したが、その奥の枡形山の尾根よりの谷ではホタルは確認できなかった。家屋が建っていたわきの林のふちで確認できたホタルは、下のホタルの里から飛翔してきたホタルとも考えられる。
- ・ 2007年は全ての場所において、延べ発生数が2006年よりも増加し、①駐車場奥、⑤科学館奥、⑧谷間の探勝路(木道)では延べ発生数が約2倍以上になった。
- ・ 各調査場所の最多確認数は、①駐車場奥(23)、②奥の池(確認されず)、③奥の池南側谷戸(確認されず)、④旧岡本谷戸(確認されず)、⑤科学館奥(16)、⑥マレーゼの谷(戸隠谷戸)(3)、⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)(27)、⑧谷間の探勝路(木道)(48)であった。
- ・ 今年の発生数のピークは生田緑地全体では6月23日だった。
- ・ 2007年の調査および1998年から2006年の生田緑地のゲンジボタルの発生について概観する。2007年は初見日が6月9日、1998年～2006年の初見日の平均日6月4日より遅かった。発生数のピークは6月23日であった。1999年から減少していたホタル延べ発生数は、2005年に2004年と同数になり減少傾向にストップがかかったが、2006年は減少した。しかし、2007年は約2倍以上増加した。ホタルは約7年周期で自然増減を繰り返すと言われている。2007年の増加が自然増であるのか、もっと別の要因であるのかを、来年も引き続き注目して調査を続けていかなければならない。

終わりに、暑くて多忙な中、青少年科学館に立ち寄り、ボランティアとして調査に協力して下さった沢山の方々、また調査を支えて下さった科学館スタッフの皆さんに厚く感謝申し上げます。

表1

2007年 生田緑地ホタル調査結果表

月	日	曜日	天気	気温	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
5	31	木	雨	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	1	金	晴れ	17.5	—	—	—	—	—	—	0	0
	3	日	曇り	19.8	—	—	—	—	—	—	0	0
	5	火	晴れ	21.1	—	—	—	—	0	0	0	0
	7	木	曇り	21.7	0	—	—	—	0	0	0	0
	9	土	雨	20.3	—	—	—	—	—	—	2	—
	10	日	晴れ	18.6	0	0	0	0	0	0	2	0
	12	火	快晴	22.5	0	0	0	0	1	0	3	3
	14	木	雨	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	17	日	曇り	22.9	3	0	0	0	5	0	14	14
	19	火	曇り	23.0	9	0	0	0	7	0	26	18
	22	金	雨	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	23	土	晴れ	24.6	18	0	0	—	16	0	27	48
	26	火	曇り	21.9	7	—	—	—	8	1	24	32
	28	木	曇り	25.7	14	—	0	—	13	0	26	49
30	土	曇り	23.4	23	—	—	—	5	0	21	19	
7	1	日	曇り	23.7	—	—	—	—	6	—	15	30
	2	月	晴れ	22.8	—	—	—	—	2	—	—	—
	3	火	曇り	23.5	7	0	0	0	7	2	12	20
	5	木	晴れ	24.0	7	0	0	0	3	0	8	14
	8	日	曇り	22.5	5	0	0	0	2	0	0	7
	10	火	雨	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12	木	雨	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	15	日	曇り	22.9	0	—	—	—	0	—	0	0

